

<JAAL in JACET Hours>

私たちの研究に「広がり」と「深み」を持たせるために：SIG や共同研究を成功させるためのディスカッション

Sato, Takehiro (Nagoya U. of Foreign Studies)
Kanamaru, Toshiyuki (Kyoto U.)
Yoshitomi, Asako (Tokyo U. of Foreign Studies)
Yamanaka, Tsukasa (Ritsumeikan U.)

第7回 JAAL in JACET にて、JACET の応用言語学的新展開についてシンポジウムを実施した。JACET が担える役割は大きく、今後の期待を込めた提言が数多くなされた。英語教育をその一部とした応用言語学的展開は、研究の深化と発展をもたらすものであり、JACET 理事会もこの方向性を堅持することを確認している。

現在 JACET において、応用言語学研究を集団で担っているのは各 SIG であり、これまでも様々な優れた取り組みが蓄積されてきた。グループ研究の長所を活かした取り組みは多くの成果を上げてきた一方、現在の SIG のあり方や、その研究方法には改善の余地もある。現行抱える課題の共有や解決はもちろん、複数の SIG 間でのコラボレーションや、共通テーマに基づいた SIG 同士の分担研究など、今後新たに組み入れる可能性も大きい。

今次、JAAL in JACET アワーと称し、応用言語学、そして JAAL in JACET の見地から JACET 国際大会における会員サービスとして本企画を実施する。これは JACET が応用言語学への展開を目論む一つの取り組みであり、SIG の活性化・高度化にも資する取り組みである。本企画を通して、SIG 及び会員内での共同研究に一層の拍車がかかり、応用言語学的研究の活性がもたらされることを企図している。

PART I

「応用言語学研究のススメ：マルチプル・アングル、SIG による取り組み例の紹介」

PART II

「SIG 活動の高度化(研究としての発信)、共同研究を進めるにあたっての課題の共有」

PART III

「共同研究の問題点の克服と応用言語学展開：パネル・ディスカッション」